

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信

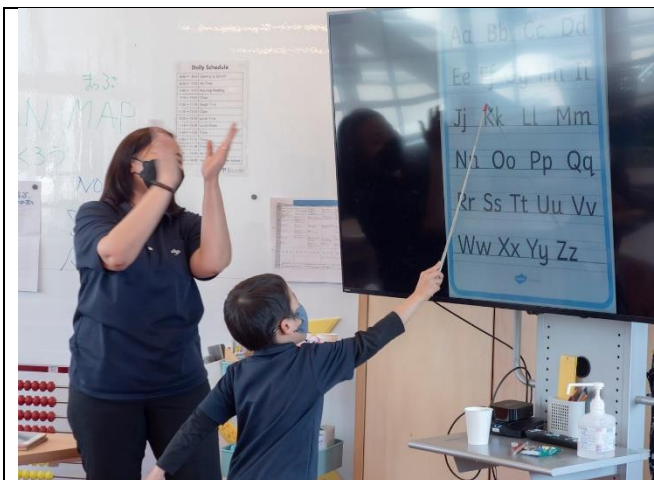


アイパッドは何のために使うのか

1年生の情報の時間では、iPadの使い方を中心に学習してきました。iPadでできること、写真の撮り方、写真の編集の仕方、そして写真を撮るときに気をつけることを学びました。

また、撮った写真をみんなに発表しました。

この後は、ApplePencilを使って絵を描いたり、ソフトウェアキーボードから文字入力の練習をしたりする予定です。強力な学習の道具として、iPadを使いこなせるように練習していきます。(文責：丹羽敦)





少しずつ、学習で扱う道具が増えてきました。
算数の授業ではそろばんやブロック。
考える技の授業では思考ツールのプリント。
そして、情報の授業ではアイパッド。
それぞれの道具には、全てに「作られた目的」が存在します。
例えば、算数の授業で使うブロックは、先日お伝えしたように「数の概念」
を学ぶために作られました。

リンゴやイチゴなどの「具体物」から、数字という「抽象物」への間をつ
なくステップとして、ブロック等の「半具体物」が使われています。

簡単に言えば、算数の学習を助けるための道具ということです。

ところが、そうした目的を見失ってしまうと、使い方は混迷を極めます。

積み木のように高く積み始めたり、ブロック崩しのようにはじいて遊んだり、
キャッチボールのように色んな所に投げて遊んでしまったり。

それぞれの遊びは実に楽しいものですから、小さいうちは中々そこにブレ
ーキをかけることはできません。

ですから、「何のために使うものか」という趣意説明は非常に大切です。

なんのための道具かという「目的」が分かると、「なるほどこれは積み木
やボールとは違うのだ」ということが分かるからです。

すると、使い方を間違えた時の指導も入りやすくなります。

こうした「目的」の話を伝えることは、意外と見落とされがちです。

大人の視点から見ると「それくらい分かるでしょ」となってしまふことが
多いからです。

例えば、ノーベル賞を作ったのが、ダイナマイトを発明したアルフレッド
＝ノーベルであることはよく知られています。

「ダイナマイト」と聞くと、戦争などで使われるイメージがあるかもしれ
ません。

ですが、もともとはトンネルを掘ったり、土木工事を効率よく進めるために開発されたものです。

ダイナマイトが発明される以前は、爆薬となるニトログリセリンを直接使っていましたが、この物質は振動や衝撃だけで爆発することがあり、とても危険なものでした。

ノーベルは実の弟が爆薬の事故で亡くなったこともあり、この爆薬を安全に使う方法を研究していたといえます。

そして特別な土（珪藻土）にニトログリセリンをしみ込ませると簡単に爆発しなくなることを、ある日とうとう見つけたのでした。

こうして、ダイナマイトは発明されました。

以後、人命が失われる事故は激減しました。

世紀の大発明でした。

ダイナマイトは人の命を奪うために作られたのではなく、人の命を救うために生まれたものなのです。

こうやって、「もの」が作られた目的を考えてみると色んな世界が見えてきます。

包丁は、何のために作られたのか。

電話は、何のために作られたのか。

学校は、何のために作られたのか。

楽器、教科書、お守り、お寺、神社、電気…考えられるものは無数にあります。

そして、これらの作られたものには、必ず目的があります。

それは、願いと言い換えてもいいかもしれません。

「こんな風に使ってほしい」「こんな風に多くの人役に立ちたい」、作り手の切なる願いが全てのものに込められているはずです。

自分の発明したダイナマイトが誤った形で使われるようになり、多くの人々が亡くなっていくことに、ノーベルは苦悩したといえます。

そして、次の遺言を残しました。

「自分の財産をもとにして基金を設立し、その利子を毎年、人類のためにもっとも貢献をした人に賞として与える。」

「この利子は、物理学で最も重要な発見ないし発明をした人（物理学賞）、化学で最も重要な発見ないし発明をした人（化学賞）、生理学ないし医学で最も重要な発見をした人（生理医学賞）、文学で理想主義的な最もすぐれた作品を生み出した人（文学賞）、国家間の友好と軍隊の廃止ないし削減と平和会議の開催ないし推進の為にもっとも尽くした人（平和賞）に与える。」

この遺言をもとに財団が作られ、1901年からノーベル賞が与えられる

ようになりました。

1969年にノーベル経済学賞が新設され、今では6部門になっています。ノーベル賞にも、こうした起源があります。

ダイナマイトやノーベル賞ほどでなくとも、身近に使用している「アプリ」にもやはり「作られた目的」があります。

例えば、メッセージアプリの一つに「LINE」があります。

国内で最も知名度の高いメッセージアプリとも言えるでしょう。

2011年3月11日。

あの東日本大震災が起きた時、ほとんどの電話はつながらなくなりました。

災害が起これると、回線のパンクを防ぐために通話が制限されるからです。

そんな中、大切な人と連絡を取り合う方法として活躍したのがTwitterやFacebookなどのSNSサービスでした。

電話回線とはちがったパケット回線というものを使用しているため、災害時に電話回線が制限されても情報のやり取りをすることができます。

6年前に起きた熊本地震。

私の妻の姉や親せきが大勢住んでいる場所でした。

電話は、やはり使えなくなりました。

けれども、「ライン」はつながりました。

「みんな無事だよ」

そのことが分かっただけで、どれほど安心したことか。

無事を確認しただけでなく、その後の状況についても連絡を取り合い、励ましの便りを送ることもできました。

災害が起きた時でも、大切な人と連絡を取り合えるサービスを作ろう。

そうして誕生したのが「ライン」です。（「既読」という機能は、返信する余裕がなくても相手に安心してもらおうという思いでつけられました。）

しかし、こうして生まれた「ライン」を、まったく別の目的のために使う人もいます。

人の悪口を書き込む人。人を傷つける目的で使用する人。

「グループはずし」「既読スルー」などと呼ばれる行いで、「いじめ」を行う人もいます。アプリがきっかけで、尊い人の命が奪われてしまった事件も多数報道されています。

数年前、ラインの会社の方に私は直接ご意見を伺う機会がありました。

会社の方々も、今の状況に心を痛めておられました。

そんなつもりで作った道具じゃない。

人々の役に立つように作ったアプリなんだ。

そういう思いが話の端々から伝わってきました。

アイパッドも、非常に魅力的な道具です。

入っているアプリや機能も非常に多彩で高性能です。

使い方を間違えれば、簡単に人を傷つけられるし、時には命を脅かす脅威にすらなりうる力を兼ねた道具です。

だからこそこの道具も、それを使う人の「心」がもっとも大切なのだと思います。

1年生で、初めてこうしたタブレットを使う子も大勢います。

ですから、少々時間がかかったとしても、次のことは丁寧に確認していきたいと思っています。

「アイパッドは何のために作られたんでしょう」

「学校では何のためにアイパッドを使うんですか」

単に便利さを享受するだけでなく、目的を確認しながら使っていくこともまた大事な学びだと言えます。

何のために使うのかがしっかりと分かり、使う時の心が整うようになると、その道具を使い方も自ずと整ってきます。

そうして現代の IT 環境と付き合う心の姿勢も、我々大人も共に学び続けていきたいと思っています。(文責：渡辺道治)



(読者ページはこちら↓)

<https://docs.google.com/forms/d/1DoRWC86GgFFKayOoi7CTk6XcbykJgZ7y9xbvViZBZ-k/edit>

